

0922
21
3 1

橫濱開港見聞誌

下



柱時計の晩鐘ふ胸きうたに開かりく積あびたる金巾の綾る色も
 白妙ふ暮雪をつる入船はめで度港ふ懸る心の晴嵐と港崎町の
 居つけふまつり濡る夜の雨座敷ふくまざる銭の月よかきみも横
 文字中ふうのらるの国印南京さん手作の糖やらく雁のまきもち
 ろろぬ大交易四方の暉夕日景錦ふうの硝子障子見渡は異客の
 大船がどりと響りぬ大筒ふつま乗出は洋の方帰帆も引や
 海道を空ふけむの一文子ハ蒸気船の目印ふ千里を重る万
 里の波上追風るぬ早走りハ後の荷物で利益の為古卿へ飾る
 錦繪本あまの土産と船出する商賣ふるがとある何国人も同支ふに
 別の異人ともう言ふ及ぬ

慶應元丑夏



王蘭齋老父識



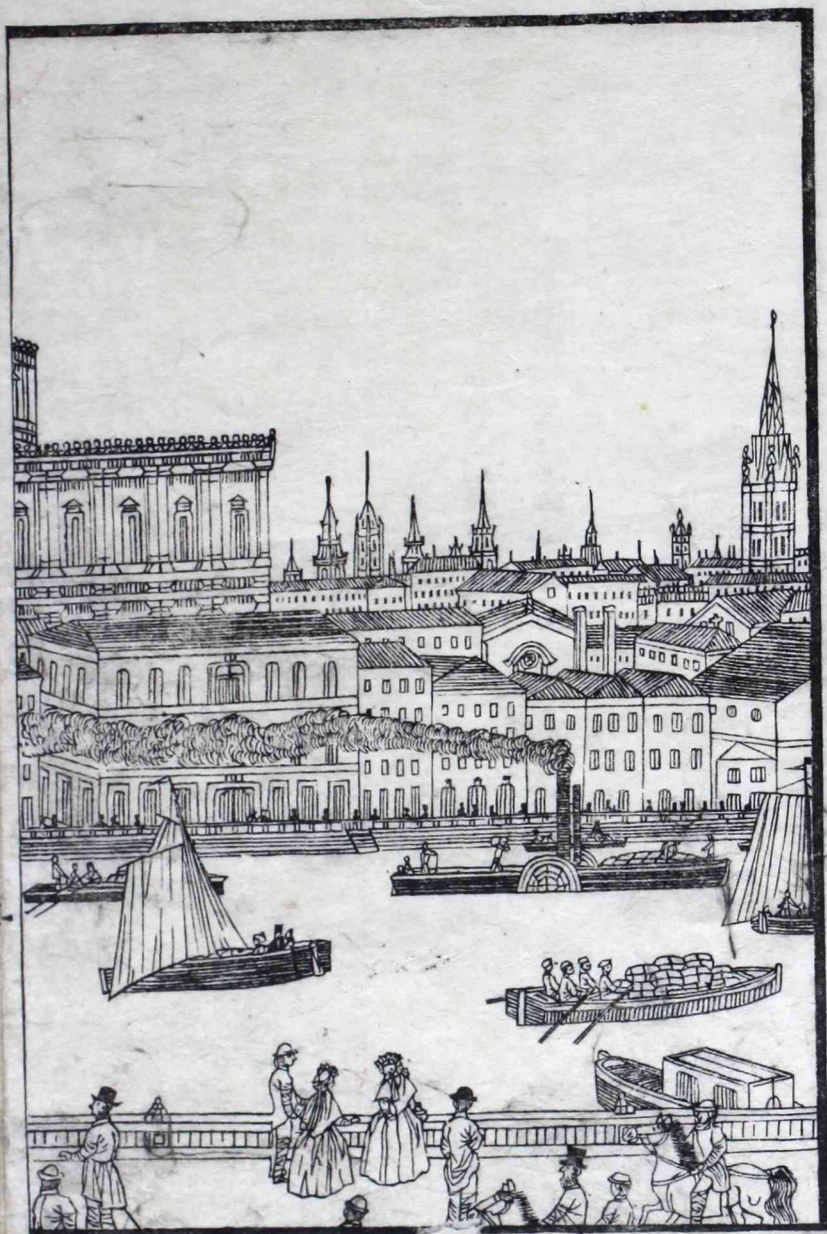
横浜国立大学附属図書館



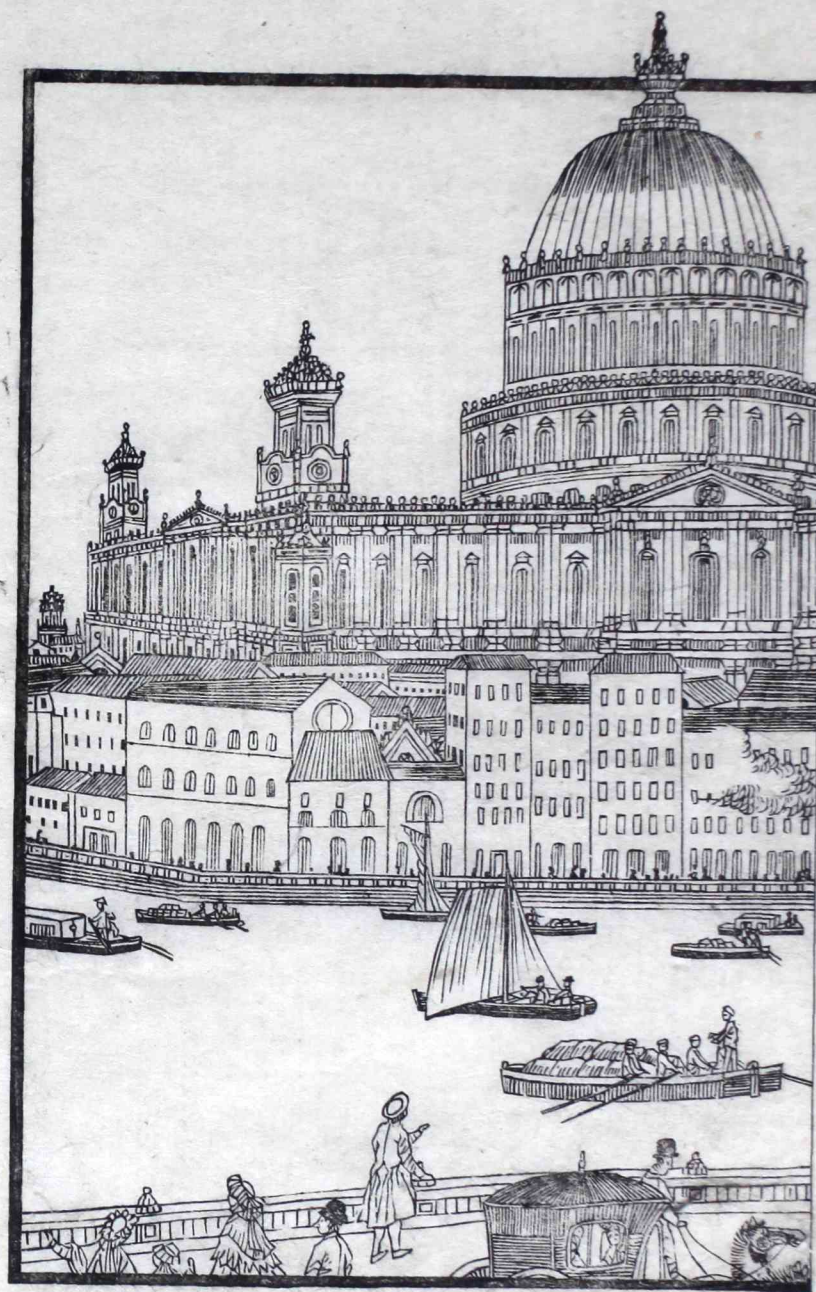
06582991

横濱渡来
英吉利國
王城城郭
ロンドン川之
圖

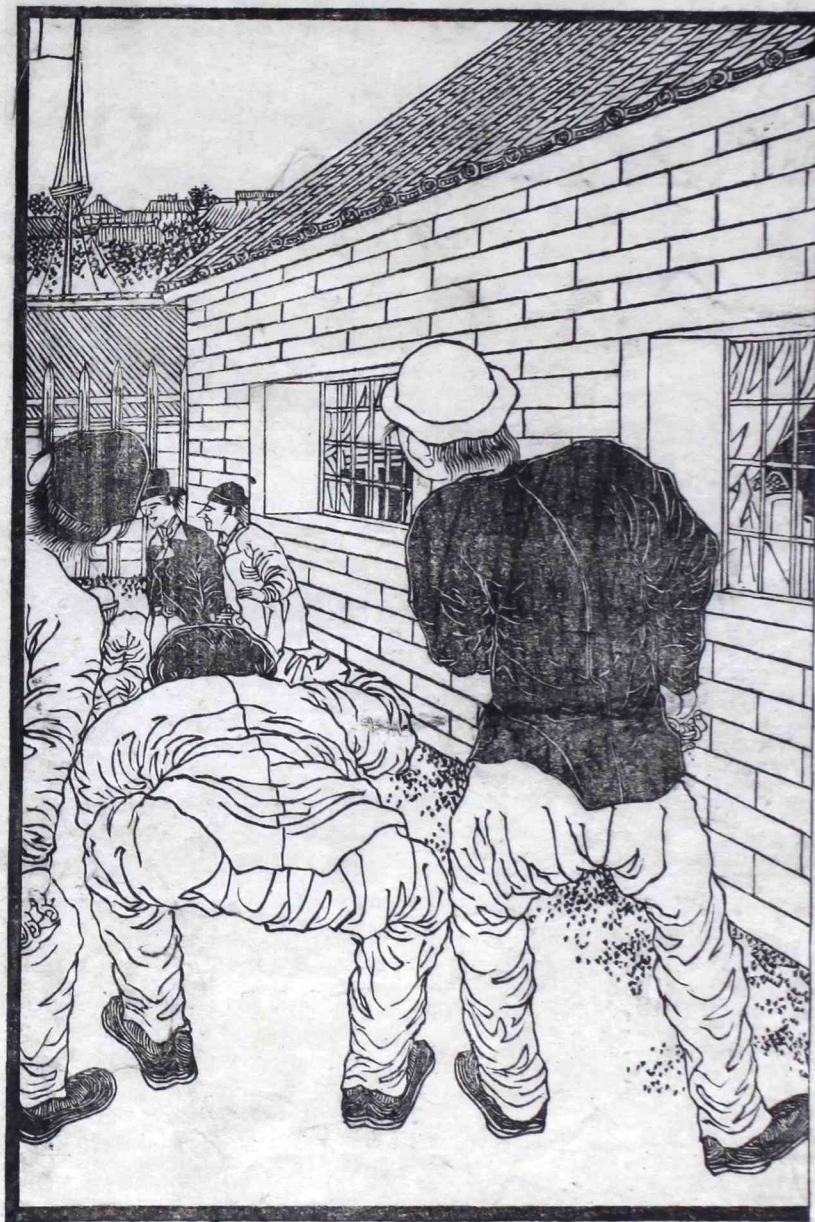
此圖者英國之
銅版有處見
是模寫以今
冊中出ス



倫敦河渡
大橋數所
有紙面徒
一橋畫其
余畧



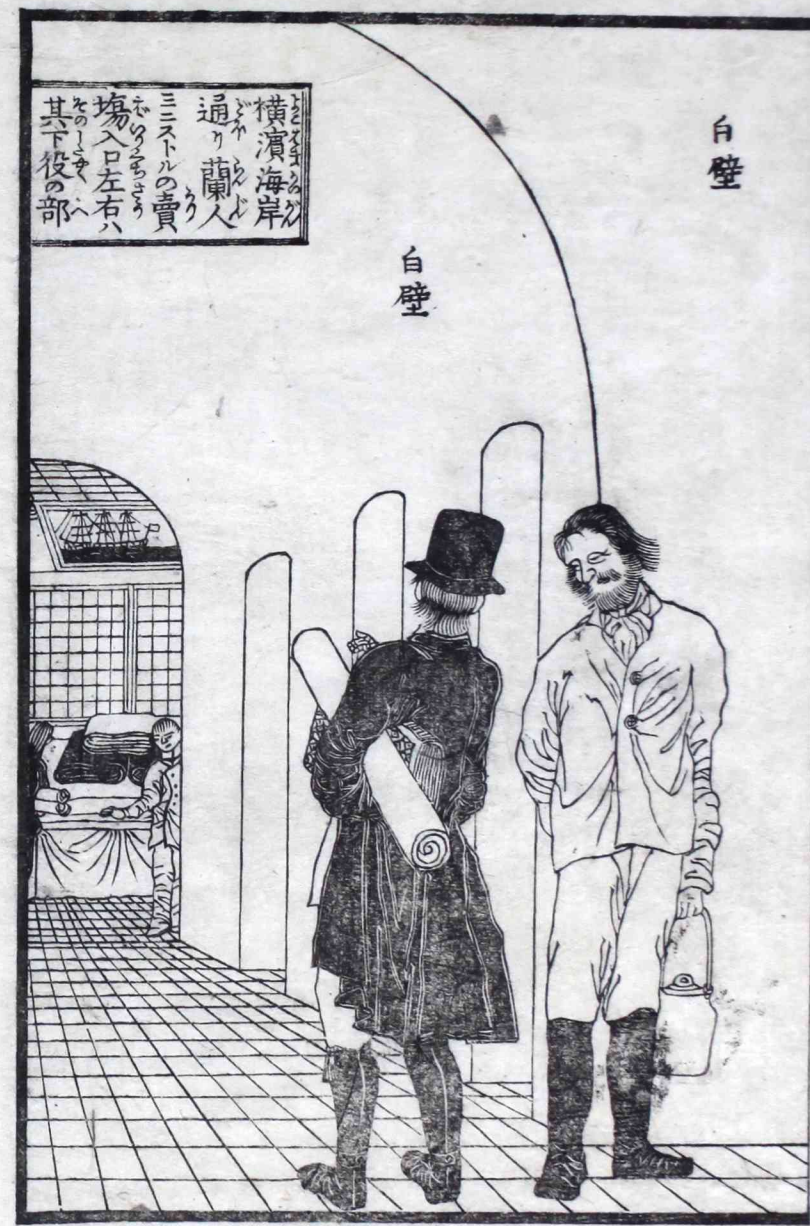
橫濱六



白壁

白壁

横濱海岸
通り 蘭人
ミストルの賣
場入口左右
其下役の部



屋多入口
六つ有ハ又
此次の図を
以て内見

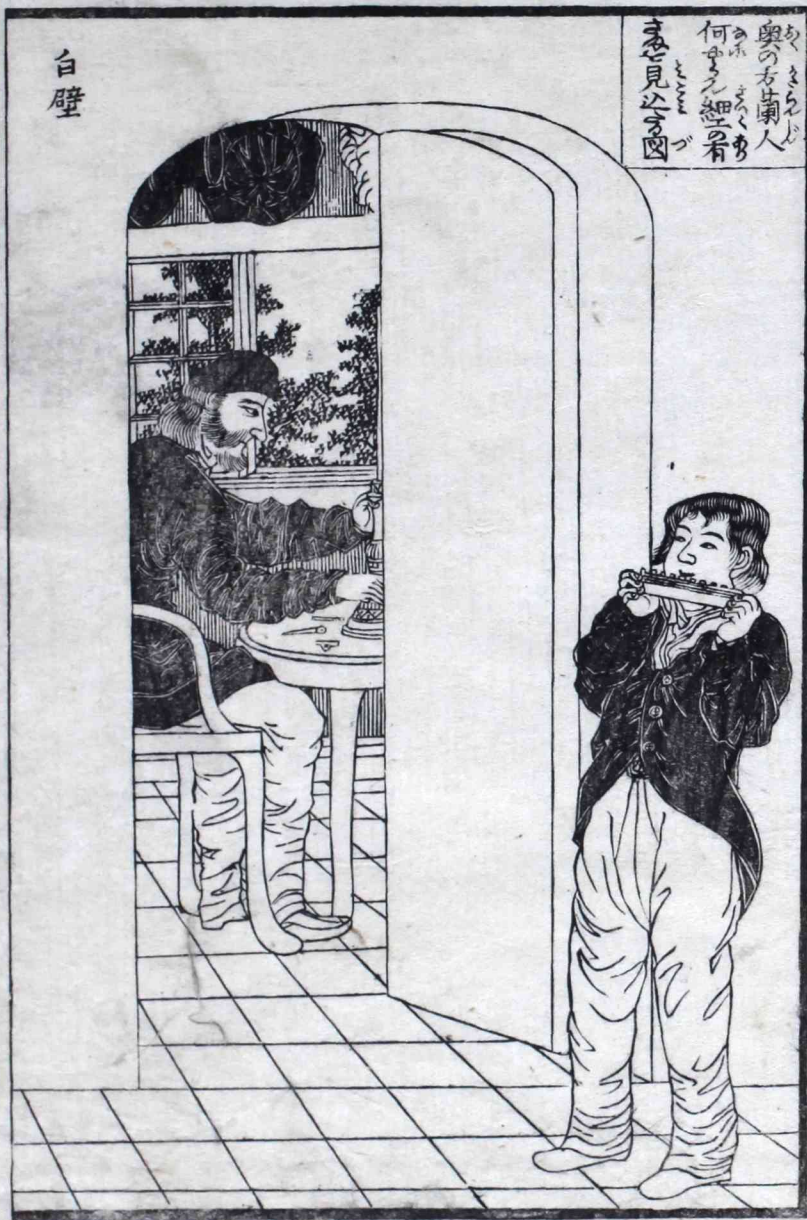
白壁

白壁

阿蘭陀婦人



白壁



奥の方蘭人
何ぞと細看
まき見込る図

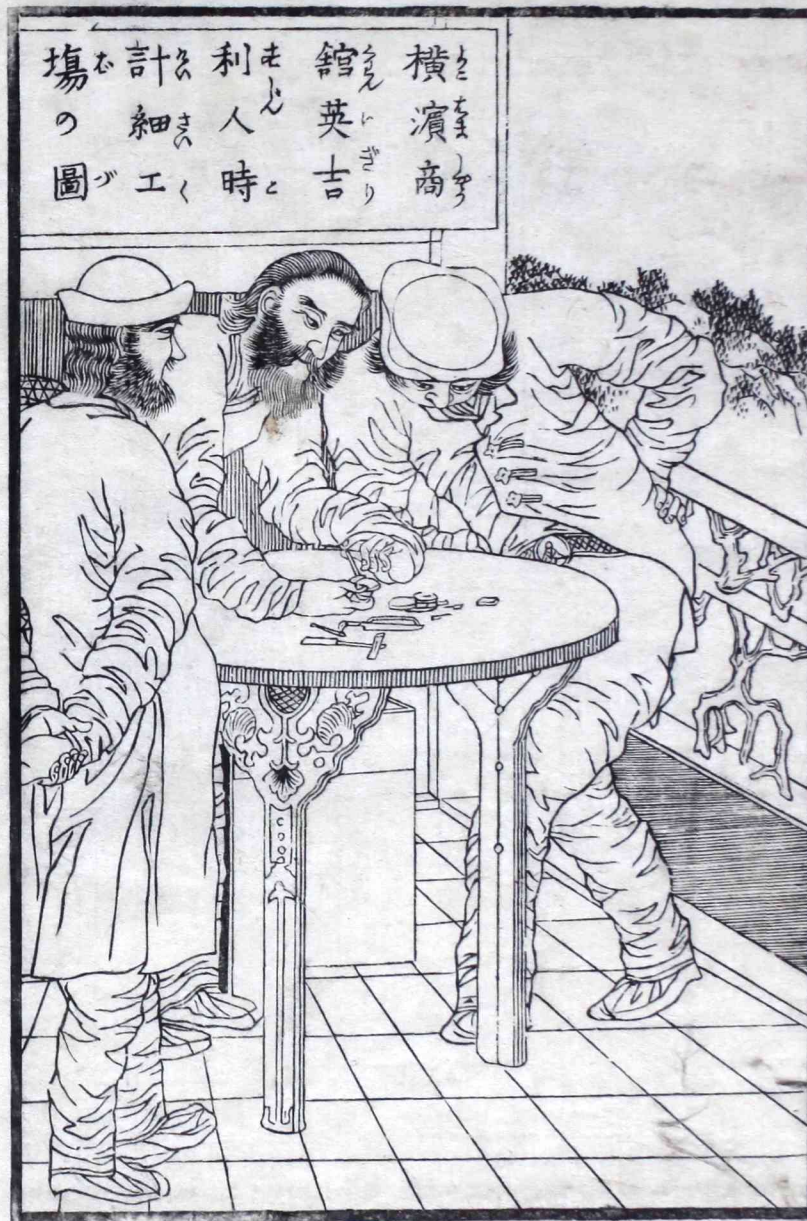
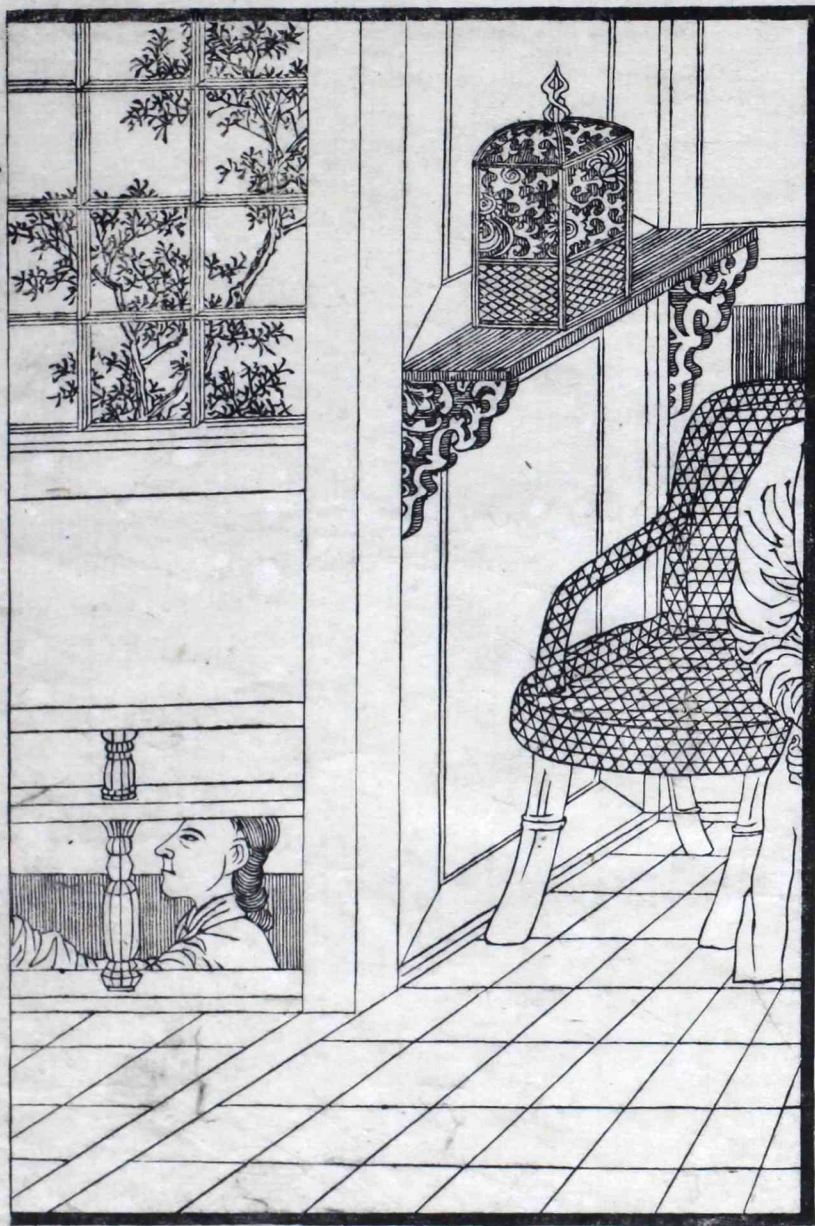
白壁



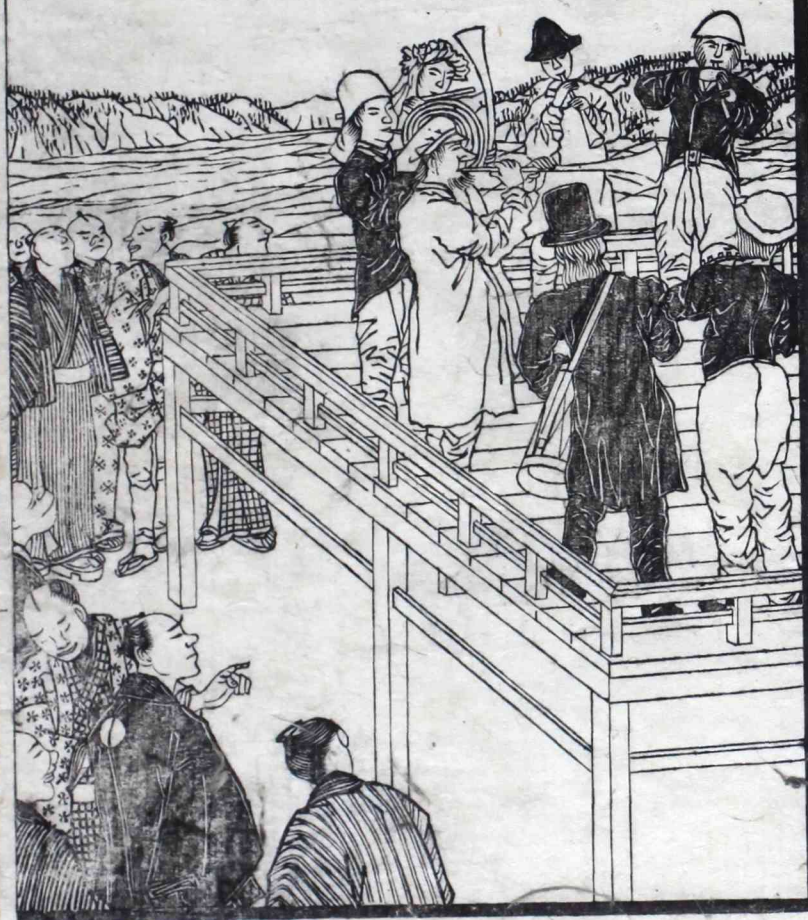
支とまろ
前み見る処の
右側其部屋
二面ハツ不有

横濱

五

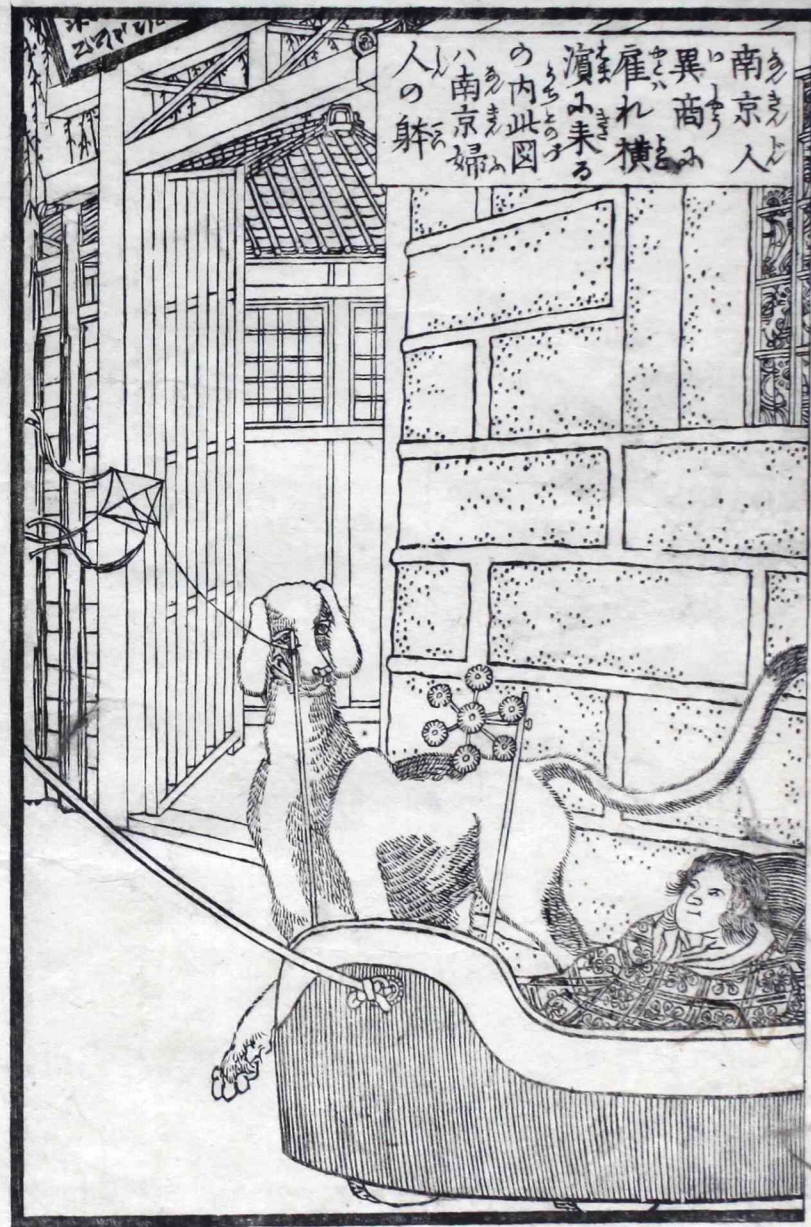


横濱を亞
 墨利加人休日
 諸笛と持出
 て高堂より
 九つと五つ
 て是を吹き
 たりと廻り
 遊ぶの図



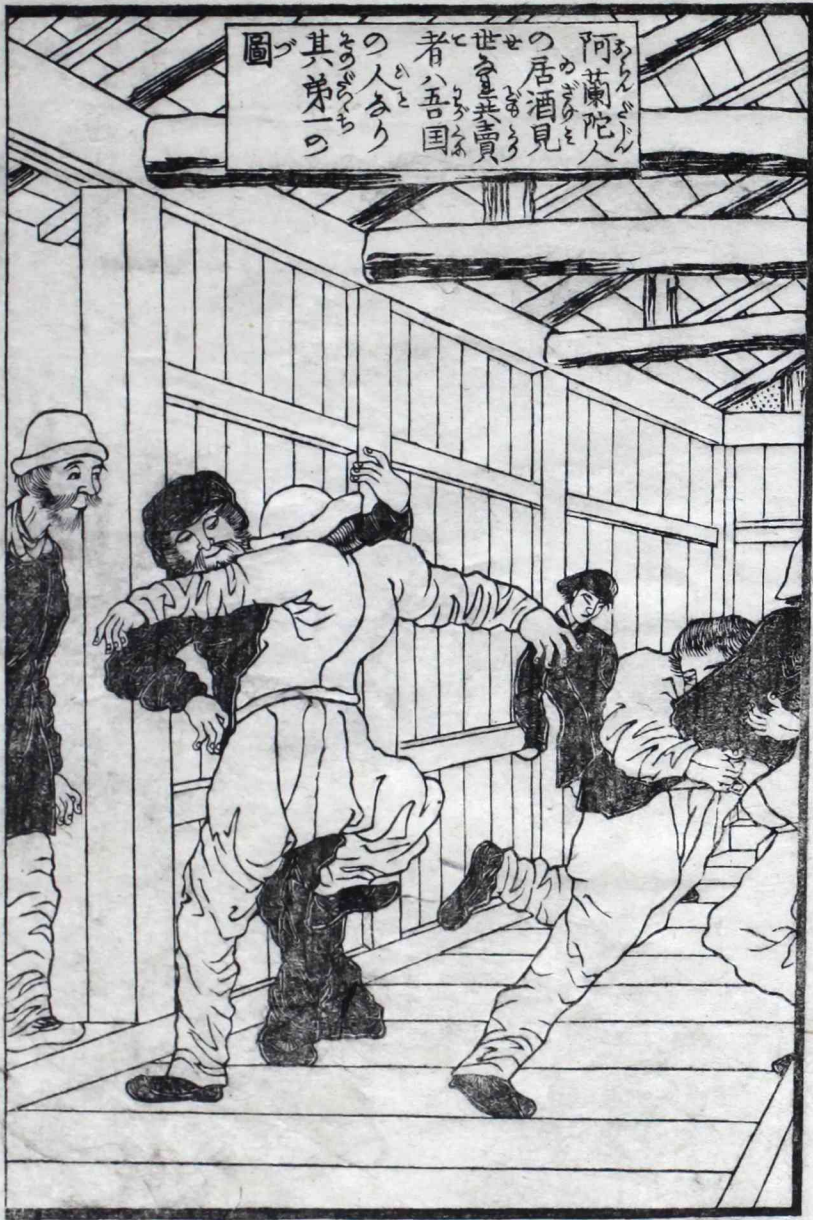
横濱を亞
 墨利加人休日
 諸笛と持出
 て高堂より
 九つと五つ
 て是を吹き
 たりと廻り
 遊ぶの図

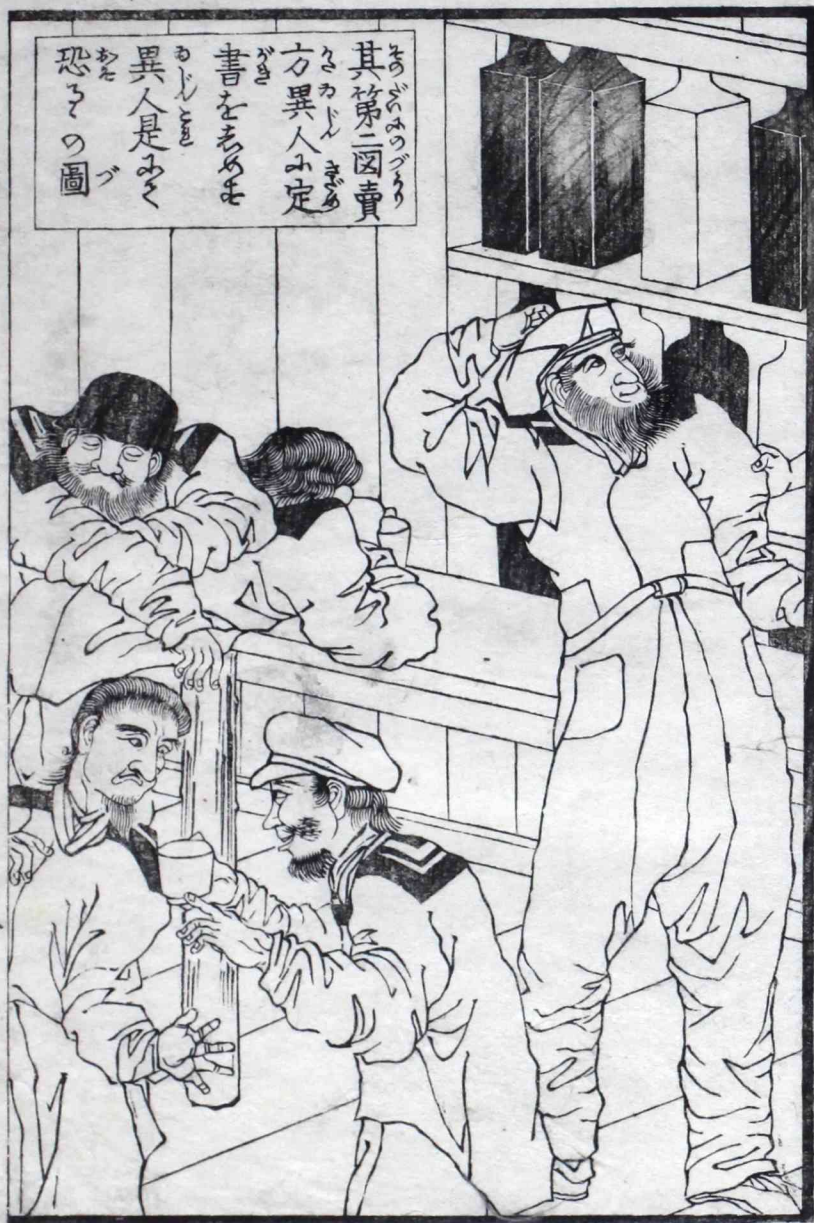
七

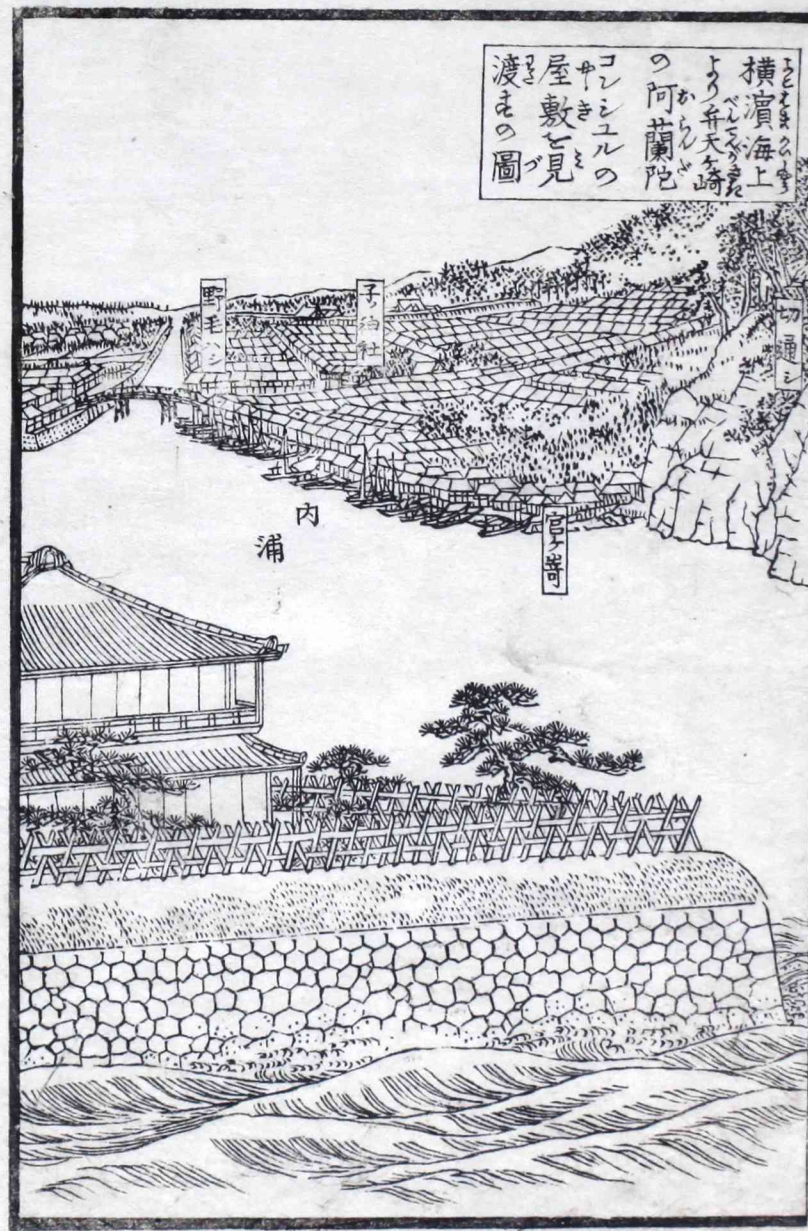
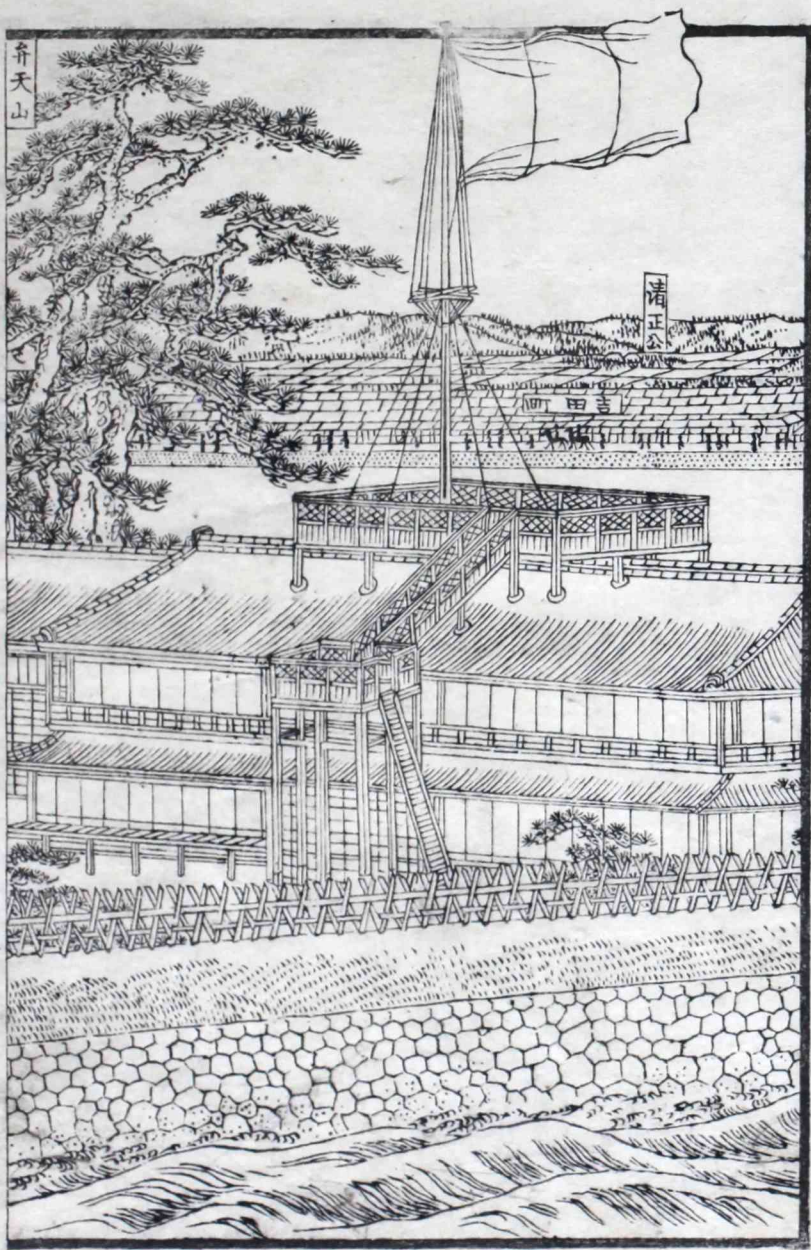


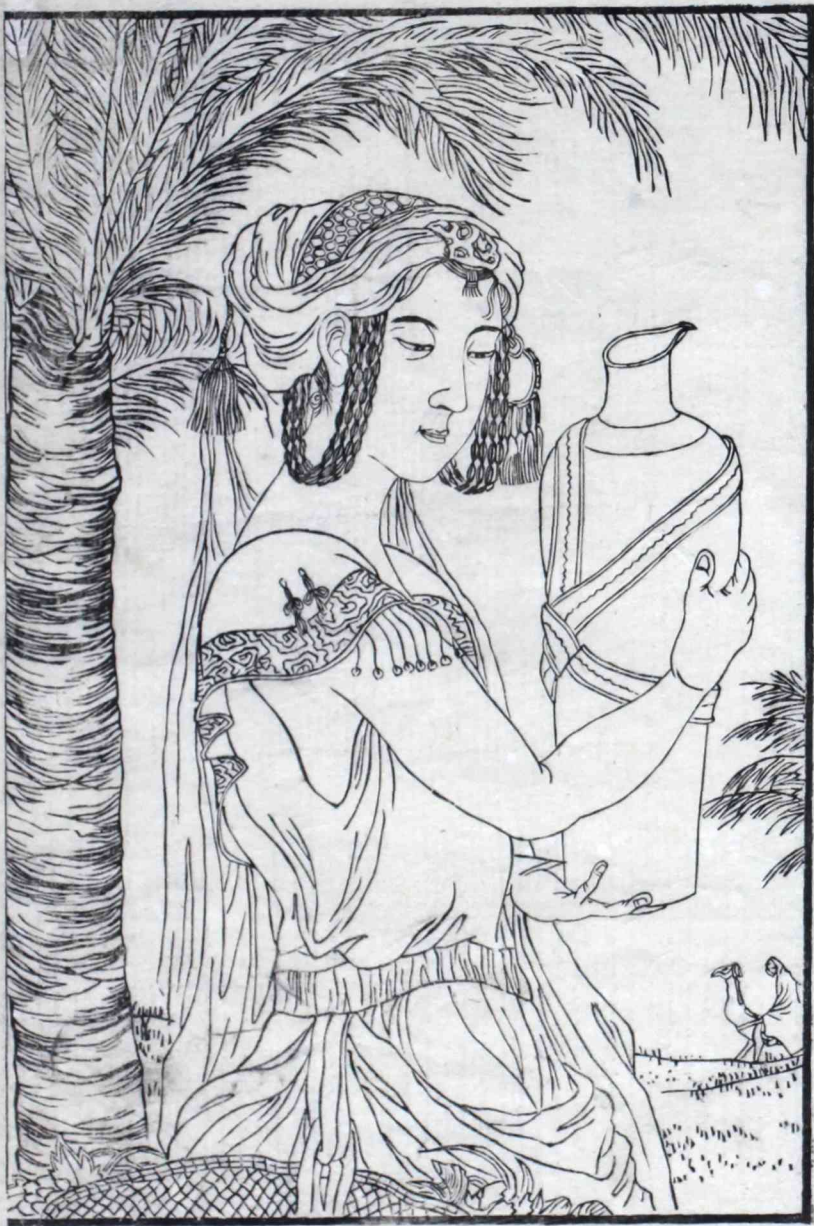
南京人
異商
雇れ横
演み来る
の内此図
ハ南京婦
人の舁

阿蘭陀人の居酒見
 世を共賣
 者吾国
 の人あり
 其弟一
 圖









南天竺
印帝亞王
同婦人
横濱と見
る如石版
の写
り



黄
帝
六
世

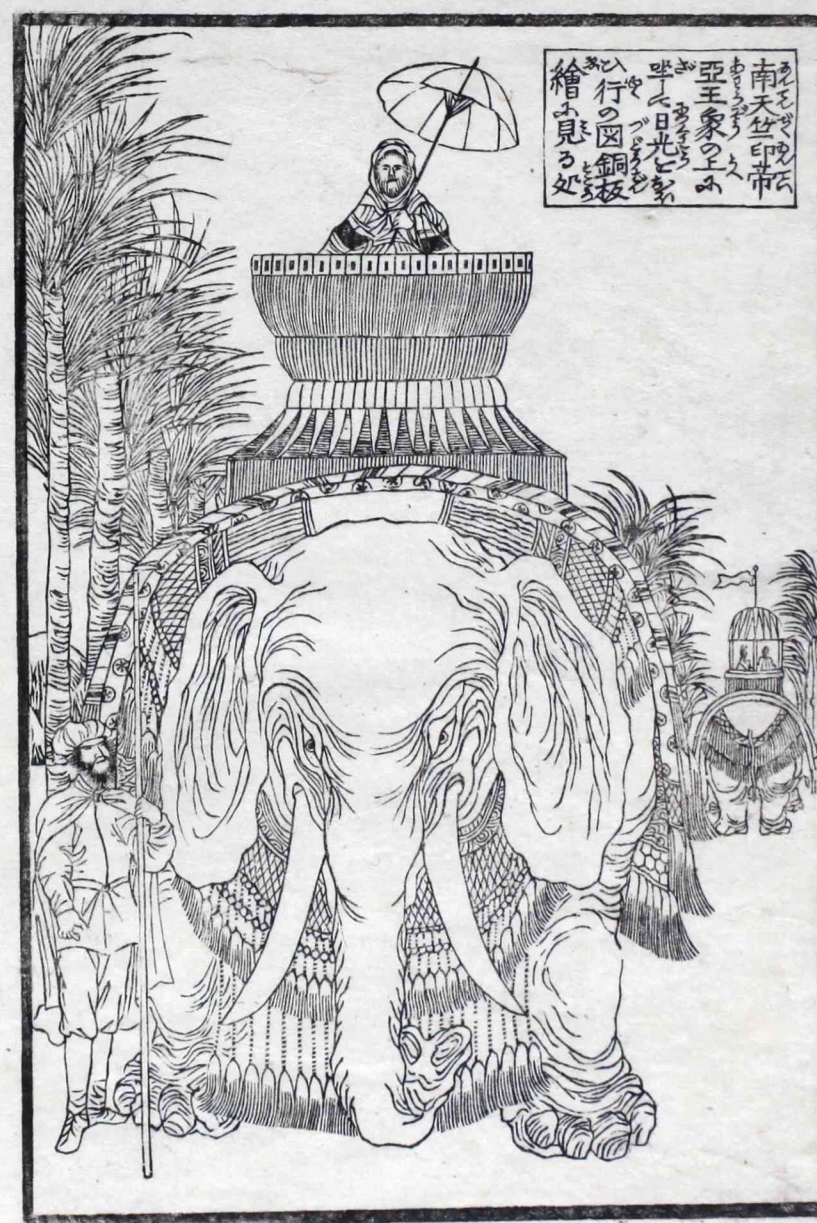
象怒り鼻
を以て大樹
を空中に
列上るの
圖



黄
帝
六
世

横濱杉山
 の上り商館
 よう山を下り
 本町の方へ
 出るの圖






南天竺皇帝
亞王象の上
日光に照
りて行の
銅板
繪に見る

五大州の内歐羅巴その一分英吉利期の国王城下ロンドンの図ハ英吉利期
めく製板の銅版を模写して此卷中におかし又横濱異客の下男或ハ船子
など休日ハ商館の間廣ささるふ會王打ハ玉當ふハ工をさるふ吾国の
子供などめんち打ふ同一其十人ある一人大ハ勝ハ此場と立去んとされお中く
是をさるふとさるふ是をさるふ此場とさるふ時ハ勝る物の内ハ三分の二ツ程
つゝ其処へも逃れんとさるふ数ハるハ大勢組付てそのあつさる道とさく
見ゆる大ハもハ是をさるふちあり海岸通りの商館ハ阿蘭陀人其名三ニストル
館内ハ賣場と初めふさる其家作と見ゆる木作りとさるハ阿蘭陀の風め
其入口ハ大障子二枚とさる五色の硝子とさるハ張是をさる向奥の方へ行其形
火燈口めて天井をさるハ従ひ九く作り其左右ハ又ニツツの火燈口ありまて白壁の
いづく塗るさる其左右の口内ハ若き男女ありハ何せん手仕支をいどとさるハ
いさハ腰の上着とさるハ下着ハ白金巾の筒袖ハ腰みさるハぬきとさるハ白巾

みづ平氣多此異人呑むをむつてさへ外より同国の異人入来り片手み茶
見片手此人をさへ此酒を呑ふまうと心もち愛む口のなみおける
時来り一異人ハロとむむらんぞと云ふ我ハ其様み酒を呑まは是
迄さしとつた逃のんともあま酔ハの時茶をの酒をのと呑と茶を
臺の上み置来り異人とあひ船子があひて奥のちより出来り外へんとさ
しりよりあひる組付れ共此船子つた男史せあひ引く行との異人ハ
酒を多く呑とさ者何と何と喰とあひ深く呑と時つてくさるま
てあひつた二かゝとの有時ハ酒を吐と先年長寄の蘭圖の玉版を見
酒盛の圖の内ハ一人酒ををるあつた此酒屋のハ異人二人あ手とひき足
上て何やえんらと踊りさびかや二人のあつた有る又一人がせんぬやう
めくさくさくさくさくとあつたさつた賣人の外ハ三人日本男あつた二人をさへ
又かの書付とびはじをその係表へつたかま何とも言ひ行ふ此見せ来り酒

呑者ハ上官ハまきつて中より下官み至ると見ゆと酒ハ極高ねの品あり
とのハ上段ハ筒茶を二の金二両一分二朱が中段ハ三分一朱が下段ハ
下直つて有とささも異人ハ高直段の酒を見る内ハ三盃五盃の呑のあり
上酒とさ其色あつたあつたあつた有と甘くあきもあり是ハ中通りのの
み下酒ハ真黒色みでかつあつた水は有元来木の皮よりあつたさりの
とのハ是を亞弗利加の俗ハ云黒人此酒を呑と数とあつたさのさつたさ
直さるささくさ速あり又阿蘭陀佛蘭西此州の人能日本酒を好と呑と
多ハ南京人元来米を喰と生長するさ吾日本みうささ酒ハ至ても地
さうらうさ呑むと少く日本酒を好と呑其外ハ凡日本酒を呑とささ異
人云日本酒ハ熱身みきと甚とつたあひ又と酒多りと云横濱のさ
きさるささ記さ横濱の茶屋女小娘みで用度おの此見せ来
る後異人ハ知ると見へ自分呑さの酒を出ると呑さみ平氣みり

あぐくくと香い甘くと香い又夢中め香や知と先みりて木皮を挽て
る工振りとする都て肉桂をき唐桃をき椰子の実とまじり蒲萄
を用ひ此方ハ最上酒の内ありきと酔て踊る程のこ有きと思へとも
焼酎を合ふりみ酔を合ふと見ゆ又休日異人数十人ありて二間
あとの臺より種々なりき笛と持出た九くあひ居りて廻りあふその
笛とあふまを何と名付たりと聞ふは是西里利加の処音楽多
と横濱の人をへり又其国の銅版或石版を見ゆみ石を置上りしと見
九き臺の上め此ありき見る又海岸通りて南京婦人が異人の小児を
車ひへる前の所ハ南京のつらり日本の風車を立て長き紐を引や頭上の
毛色ハ吾日本ハ異工とミツロ此如く結ぶ下め白巾とまとい両足まで
長く白のたるの如く其上ハ唐あるさの花色あると
此如く筒袖
を用ひ手足の小き工子供の大ききを見たりとありとも南京北京とて唐国

の風俗ハ白巾を以て小児の時より手足をきね縮むとありと石一手足大
き男是をきねふと人其き実ハ横濱ハ思へとも廣東福建の地ハるき
うと思ふ此横濱ハ諸州の異人渡来を又来らるる銅版石版の画あり
みそ外国を見ゆみ南天竺印度帝王近国みそくのありて此国みそ
向み一太ハ戦ハ勝てての国を切ち本國ハ帰陣あり是を王の婦人きつ
へく其支度をきく廣野みくちちのさうの物を持きて王乃
近く来る時名水のあふりて此井ハ古聖人ありて此井をきく王乃
吞て城み入るき臣下の婦人吾つきの来るをまた又前の如く是は帰陣の
祝め常の日の此水を吞バ祝事み用とふ此繪西洋人の石版其傳ハ右の如く
と横濱の人が異人みきなる我ふを南方の印度み地につききる
先年長崎ハ銅版の鞆鞆國の婦人の姿を見ゆみ其髪毛を頭上より
左右みりて三方み長く下るハ鞆鞆國ハ印度の姿とありて天竺ハ昔

より長く其女美ありと佛像の觀音勢至の尊軀を以てりちあるありの
不夜印帝垂婦人の髪毛とあり左右下は輪の如く先の方を頭上よりするも
上の妻をさへくさるるさへさへ腰のあはれなりと有り網笠をさうりつり
と見るふ五色の花をさへつり美妻ふさへる古昔觀音勢至も如此ある
と思へ此印度を極楽國といふ真妻六の國と思ふ然るに此板圖の極精
色あるが面色白く美あり黒色あり有む今横濱の印度人最下民といふさ
るる上官の白く美あり下民の黒色ありありと有りその下民
横濱のさへく有る面色さへあり亞弗利加人程ありさへる
さへくさへくありと見る其國五つあり北天竺東天竺西天竺南天竺印帝亞
ハ極熱國也ハ黒色あり生るるさへく上下人身二色あり何れもさへく
されハ博學の傳をさへ然るに此黒色の人あり日本海邊の人さへく
げさへくさへく程さへく色さへく白さへく眼中と笑へ其齒のさへくさへく

横濱

一

二

黒人うと思ふと人あり日本の人ハ血氣つる生さへくハ其色赤色あり
さへく海邊の人其色黒きさへく夏月日光のさへくさへく血氣
さへくさへく時ハ黒く見ゆる實赤黒きあり此人海邊をさへく住居
さへくさへく黄白ありと思ふ印度國共ハ亞弗利加國の黒人ハ
さへくさへく墨を水にさへくさへくさへく色さへく吾横濱の渡来ハ三年ハ越
とさへく其色化さへく大衆鼻の力に以て大齒をさへくさへく
より云傳さへくさへくハ耳のさへくハ横濱あり今銅版の圖ハ是を見る
ハ其得さへく付て其妻をさへく大衆廣野ハさへく時向ふハ獅子あり
のさへくさへく飛来ハ此獅子山中ハ牛を見出し喰んとハ牛さへくさへく
へハ助行獅子ありさへく尋ねハ此原ハさへく見るハ大衆あり先の牛ハ此
象喰ひさへく思ひてさへくさへく来ハ齒をさへくさへく象ハさへく是
ハ向ハ戦ハ或ハ三日三夜又ハ五日物喰ハさへくさへくハ獅子ハ山へさへく

横濱

二

象ハ獅子の引るを何と云ふや砂をけりてあり呼ぶ獅子の之
 山近く行て出て来ると云心や牙をのりて大木の根をつたひ引あぐ
 鼻の先をのりて根の間へ入し引あぐ高くてもあぐと其有様
 銅版繪のき此巻中みよる此時象ハ合千の獅子来らば是非引
 人を其あふ牙を折るわたりと有て此野の土人ハと云得んと遠く
 のうぐみ思ひ居る獅子象もみ引るあえ出てを多く得るのいさ
 交易の場み持心大なる利を得るのありと元来此象ハ自他身
 鍵を打て引あぐと常のうぐみとなし獅子とあぐを海中の猛畜
 辱と戦ひ一角をつた折る度肉をとりと有と人何と云わぬ
 常のうぐみぬきありと聞きあるまありさば印度やこの象を
 りの能軍用とて鉄炮もとらるるなり國王常みよる金銀珠玉の
 ふうて用ひ其上ふ乗て道行まときその図を写しとせ

横国藝 第8517号
 横濱分校 昭和 第420号

横浜国立大学附属図書館



06582991